

## News Release

**キートン山田さん『ちびまる子ちゃん』最後の出演  
3月28日(日)放送『ある春の一日』**

日本アニメーション株式会社(本社:東京都中央区、代表取締役社長:石川和子)がアニメーションの制作・ライセンス管理を行う『ちびまる子ちゃん』に放送開始当時から出演していたナレーション担当のキートン山田さんが3月28日(日)の放送で番組を卒業することが決まりました。3月28日(日)の放送は、春らしく桜にまつわるお話となります。その中でもまる子と家族を中心にいつも通り、にぎやかでほのぼのとした内容のお話をお届けします。お話の最後には、これまで31年もの長きにわたって、『ちびまる子ちゃん』のナレーションを担当して下さったキートン山田さんを送り出す、ちょっとしたサプライズも準備しています。キートンさんの小気味良いツッコミと、まる子や登場人物たちを見守る温かいナレーションを聞くことができる最後のエピソードとなります。是非ご覧ください。

**キートン山田さん 最後の出演回『ある春の一日』の巻 概要**

## &lt;放送時間&gt;

2021年3月28日(日)18時~18時30分

## &lt;あらすじ&gt;

ある春の日。夜桜会のことを聞いたまる子。翌日、さくら家も夜桜会に行くことになったのだが、朝から次々に起こる不運。これは出かけるなという知らせ...?果たして夜桜会には行けるのか?



<キートン山田さんコメント>

Q.今回のお話は、いつものナレーションとはちょっと違った登場でした。工夫したことは？

A.「もともとナレーションよりせりふが好きなのですが、ナレーション以外のせりふだったので、たった2言でしたが、難しかったです。でもナレーションでは出せない感情が出せて、役者に戻ったようでうれしかったです」

Q.31年という長い期間、演じてこられました。一番の思い出といえば？

A.「さくらさんが亡くなったことだね。実はさくらさんが亡くなった時には、ぼくは心の中で、“75歳になったら『ちびまる子ちゃん』を卒業させてもらう”って決めていたんですが、まださくらさんに言える段階ではなくて。できれば今日、この時にさくらさんに言いたかったな。それが一番残念なことかな。実はさくらさんのお別れ会で、さくらさんの生い立ちをナレーションで語ったんです。TARAKOさんと2人で。でも感謝するにはすでに遅く、一言ありがとうと言いたかった」

Q.ナレーション以外で演じてみたかったちびまる子ちゃんのキャラクターは？

A.「ほとんど小学生の役だから、ないですが、変なおじさんとかやりたいよね、そういうの好きだから。ナレーションって声とか抑揚とか幅が狭くて、自分の間を作りづらい。尺にぴたっと入れなければいけないし、自分を捨てないといけないし、“思い”とかをいれづらいので苦手意識がずっとありました。だから、なんとかしようという思いで満足できなかったことが長く続けられた秘訣(ひけつ)かな」

Q.新ナレーションさんへ一言。

A.「どなたかわかりませんが、その人の世界で良いと思う。その方がぼくも楽かな。潔く別の方だとわかるようにやってくれたら良いなと思いますね。“かわりましたよ！”っていう方が良いとぼくは思う。これからは『ちびまる子ちゃん』をお客さんとして見続けていきます」

Q.ファンみなさんへの気持ちを一言。

A.「ファンの皆さんもですし、番組は大勢のスタッフで作られていて、特に『ちびまる子ちゃん』は同じ番組を31年間続ける上で、大勢のスタッフと関わってきたので、そのみなさん方に感謝したい。こんな長寿番組に出会うのは一生に一度あるかないかですよ。たくさんあるナレーションのお仕事の中で一番気を遣うのはこの『ちびまる子ちゃん』なんです。せりふの分量は少ないけど、勢いでできないから、体調とかも含めて一番気を使う。この年までやってこれたことに、スタッフのみなさんに感謝です」

<番組スタッフ一同コメント>

「31年間、1445回もの間、おかしみがあり温かみのあるお声で、いつもまる子たちを、そして番組を支えてくださり本当にありがとうございました！キートンさんには感謝しかありません。本当にお疲れ様でした！ご卒業されるこの『ある春の一日』をキートンさんにささげます。いつも応援して下さいる視聴者のみなさま、この特別な30分をどうぞ最後の最後までお見逃しなく！」



## 番組概要

### ■タイトル

『ちびまる子ちゃん』

### ■キャスト

まる子(声:TARAKO)/お父さん(声:屋良有作)/お母さん(声:一龍齋貞友)/おじいちゃん(声:島田敏)/  
おばあちゃん(声:佐々木優子)/お姉ちゃん(声:豊嶋真千子)  
他

### ■スタッフ

原作:さくらももこ  
脚本・制作協力:多田弘子(さくらプロダクション)  
プロデューサー:江花松樹(フジテレビ)、田中伸明(日本アニメーション)  
監督:高木 淳(日本アニメーション)  
制作:フジテレビ、日本アニメーション

公式サイト [https://www.fujitv.co.jp/b\\_hp/maruko/](https://www.fujitv.co.jp/b_hp/maruko/)  
ちびまる子ちゃん公式サイト <http://chibimaru.tv/>

## 参考資料

### 『ちびまる子ちゃん』について

『ちびまる子ちゃん』は、静岡県清水市(現・静岡県静岡市清水区)を舞台に、そこに暮らす一家・さくら家の次女である小学3年生のまる子(さくらももこ)と、家族や友だちとの日常を、楽しく面白く、時に切なく描いた心温まる作品です。

1986年に『りぼん』(集英社)で連載を開始し、原作コミックスは全17巻が発売中。発行部数は累計3,250万部を突破(デジタル版を含む)、海外版は台湾・中国・タイ・マレーシア・韓国でも出版されました。1990年からはテレビアニメ放送もスタートし、フジテレビ系列で毎週日曜日夕方6時より放送中。中国、台湾、香港、インドネシアなど海外でも放送され、世界中の老若男女を魅了し、長きに亘り愛され続けています。



©さくらプロダクション/日本アニメーション

### <本件に関するお問い合わせ先>

日本アニメーション株式会社 広報・宣伝担当:村岡  
電話:080-1250-4046 E-mail:muraoka@nippon-animation.co.jp  
※画像掲載の際は画像下部に記載のコピーライトをご使用いただきますようお願い申し上げます。  
©さくらプロダクション/日本アニメーション